

# シンポジウム概要

東海地域は東海・東南海・南海地震のような巨大地震・津波、伊勢湾台風のような大規模風水害の脅威に同時に直面している。これらの自然災害の発生確率は極めて高く、地域特性（低平地、産業・交通の集積地）を反映した防災・減災技術の開発が求められている。また、地域における自治体や各省の事業者等では、巨大自然災害対策の見直しと防災・減災能力の強化が進められている。その中で、(1)土木工学・建築学は災害に強い安心・安全な社会をつくるためにどのような役割を果たしてきたのか、また、(2)国立大学として今後どのように取り組むべきか、と言う視点から、東海地域の大学研究者と防災・減災に携わる技術者、一般市民が共通認識を深めることは極めて重要である。

そこで、愛知・岐阜・三重の東海3県における国立大学（名古屋工業大学・名古屋大学・豊橋科学技術大学・岐阜大学・三重大学）の土木工学・建築学の教員が連携し、東海地域が直面している巨大自然災害に立ち向かうための様々な取組をわかりやすく解説し、社会基盤に携わる公共機関、自治体、消防、マスコミ、一般市民とともに巨大自然災害対策を議論するためのシンポジウムを開催する。



## 交通のご案内

東別院会館3F 東別院ホール  
名古屋市中区橘2-8-45



### ■ アクセス

地下鉄名城線「東別院」駅下車  
→「4番出口」より上がって、西へ徒歩3分  
市バス「東別院前」バス停降車→西へ徒歩3～5分

### 【JR・名鉄電車・地下鉄をご利用の方】

1. 「金山駅」→地下鉄名城線「東別院駅」→下車「4番出口」
2. 「名古屋駅」→地下鉄東山線「栄駅」→地下鉄名城線「東別院駅」→下車「4番出口」

### 【タクシーをご利用の方】

「東別院会館」とおっしゃってください。必ず「東別院」を確認してください。  
※名古屋駅からの所要時間は10～15分くらいです。

※公共交通機関をご利用下さい

問合せ先

名古屋工業大学研究支援課

Tel: 052-735-5197 Fax: 052-735-5621

平成24年度 防災・日本再生シンポジウム

# 東海3県国立大学が主催するシンポジウム 巨大自然災害に立ち向かうための 土木工学・建築学の取組

平成24年  
日時 **10/28** 日  
13:00～17:30

会場 **東別院ホール**  
(名古屋市中区橘2-8-45 東別院会館3F)

定員 **400名**

### ■ 講演スケジュール

<b>セッション1</b>	被災予測情報とインフラ管理	13:05～14:30
休憩		14:30～14:40
<b>セッション2</b>	建築学的減災と復興	14:40～15:55
休憩		15:55～16:05
<b>セッション3</b>	構造物安全性の強化	16:05～17:20

参加申込方法 申込期限は10月24日(水)までです

### ① ホームページからの申込み

名古屋工業大学公式HPもしくは名古屋工業大学高度防災工学センターHPからお申し込み下さい。

公式HP <http://www.nitech.ac.jp>

センターHP <http://adpec.web.nitech.ac.jp/>

### ② FAXからの申込み

件名を「シンポジウム申し込み」として、①お名前、②職業、③連絡先を明記の上、お申し込み下さい。

FAX **052-735-5621**

**参加無料**

対象：一般市民  
申込：事前登録

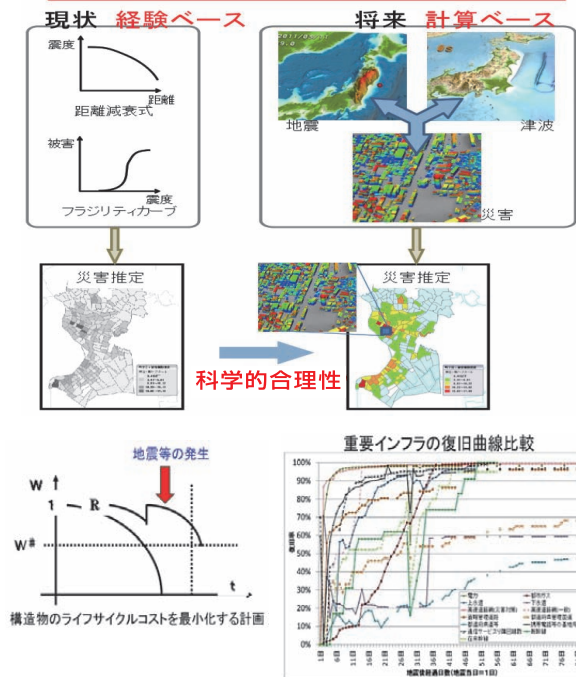


主催 / 名古屋工業大学・名古屋大学・豊橋科学技術大学・岐阜大学・三重大学  
共催 / 国土交通省中部地方整備局・愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市・国立大学協会



# セッション1 被災予測情報とインフラ管理

巨大地震津波による災害予測の現状と将来



**講演者** | 東京大学 教授 堀 宗朗  
 岐阜大学 教授 能島 暢呂  
 名古屋工業大学 教授 秀島 栄三

**コーディネーター** | 名古屋工業大学 教授 藤田 素弘

## 概要

東海・東南海・南海の三連動地震では、広域にわたる甚大な被害が予想されています。ここでは、東日本大震災からの教訓や最新の計算科学技術を用いた被災予測情報とインフラ管理技術の成果を解説議論します。まず災害発生時として、巨大地震・津波発生時の物理過程のシミュレーションと構造物一棟一棟の応答シミュレーションから、災害を予測する方法を解説します。次に、災害発生直後として、東日本大震災における社会インフラの被害・復旧過程の概要と今後の予測モデルについて説明します。そして、平常時における土木施設の維持管理と突発事象への対応について説明し、全体で議論します。

# セッション2 建築学的減災と復興



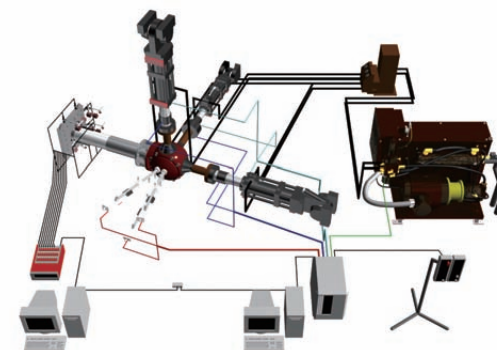
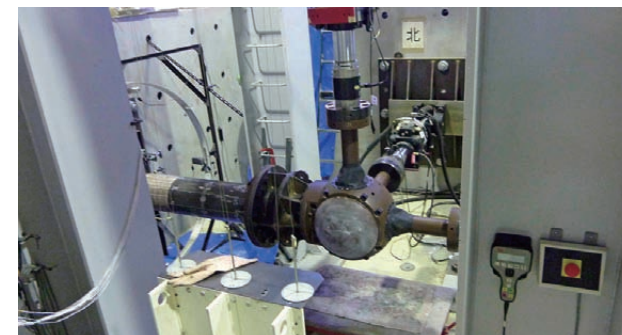
**講演者** | 豊橋技術科学大学 教授 山田 聖志  
 三重大学 准教授 川口 淳  
 名古屋工業大学 准教授 北川 啓介

**コーディネーター** | 名古屋工業大学 教授 井戸田 秀樹

## 概要

巨大地震から私たちの命と生活を守るためには、建物の耐震化はもちろんのこと、地震後の非日常にどう備え、どう生き抜くかが重要です。このセッションでは私たちの生活の視点から地震防災を考えるため、①生活を守る基本となる建物の耐震化、②激しい揺れと津波を見据えた防災・減災のための教育、そして③避難所と避難生活にみる復興への道、という3つの異なった建築学の切り口で地震防災を議論します。

# セッション3 構造物安全性の強化



**講演者** | 名古屋大学 教授 野田 利弘  
 名古屋大学 教授 中村 光  
 名古屋工業大学 教授 後藤 芳顕

**コーディネーター** | 名古屋工業大学 教授 梅原 秀哲

## 概要

阪神淡路大震災での鋼構造物やコンクリート構造物の大きな被害を受けて、その耐震設計法や制震・免震技術は著しく進歩しました。さらに、種々の構造物に耐震対策が施され、東日本大震災では構造物の多くが被災を免れ、耐震技術の有効性が確認されました。しかし、東日本大震災では、地震動や津波による地盤災害や橋梁の流出、防波堤の倒壊など新たな問題も生じました。このセッションでは、阪神淡路大震災以降の構造物の耐震設計や耐震技術の進歩と今後の課題、切迫する巨大地震への備えについて議論します。